

第 11 期

中川町社会教育中期計画

令和8～12年度



生涯学習のまちづくり

だれでもどこでも学ぶ意欲を育む
ともに学び、伝え、交流を広げる
人が輝くまちづくりにつなげる

中川町教育委員会



中川町章

●町章の由来

中川町の町章は、全体的に中川の文字を図案化したもので、外形の円は平和、円満、友情を表わし、大同団結をかたどった、行政の普遍化と平等を意味します。

中央のすどい鋭角は、町の飛躍発展を表わし、中川町の今後の果てしない躍進を形象したものです。

(昭和39年5月1日制定)

中川町民憲章

昭和52年9月21日制定

わたしたちは、北の自然の厳しさと天塩川にはぐくまれて生きる、中川の町民です。

わたしたちは、風雪にたえ、多くの苦難をのりこえた先人のたゆまぬ努力と強い精神を受けつぎ、ひらけゆく郷土(まち)のために、誇りと責任をもってこの憲章を定めます。

1. 明るく楽しい家庭と、あたたかい心の触れ合う郷土(まち)をつくりまします。
1. たくましいからだ意志をきたえ、働く喜びをかみしめ、豊かな生産の郷土(まち)をつくりまします。
1. おとしよりにやすらぎと、夢多い子どもが育つ、生き生きとした郷土(まち)をつくりまします。
1. 暮らしにくふうをこらし、教養と知性をみがき、文化のかおり高い郷土(まち)をつくりまします。
1. きまりを守り、節度をもち、力を合わせて住みよい郷土(まち)をつくりまします。

中川町教育目標

わたしたちは、先人のたゆまぬ努力と強い精神を受けつぎ、生涯教育の観点から自他の生命を尊重し、心身ともに健全で調和のとれた人間形成を旨として、次の目標を定めます。

1. 教養を高め知性をみがき、創造性豊かな人になろう。
1. 特性を養い、情操豊かな人になろう。
1. 正しい判断力と強い意志をつちかい、進んで行動する人になろう。
1. 身体を強くたくましくきたえ、健康と安全につとめる人になろう。
1. 仕事に生きがいをもち、うるおいのある郷土(まち)をつくる人になろう。

発刊にあたって

中川町の豊かな自然の中で、私たちが心豊かに暮らしていくために大切なものは、新しいことを知るワクワク感や、仲間とともに何かを成し遂げる充実感ではないでしょうか。

第10期計画の延長期間を経て、じっくりと準備を進めてきた「第11期中川町社会教育中期計画」がいよいよ始動します。今期のスローガンは「心の豊かさとうるおいを実感し、楽しみと活力あふれる地域づくり」です。

学びは、机の上だけで行われるものではありません。

- 「だれでもどこでも」、ふとした瞬間に湧き上がる「知りたい」という気持ちを大切にする。
- 「ともに学び、伝え合う」ことで、世代を超えた交流の輪を広げる。
- そして、学んだ経験を地域に活かし、「人が輝くまちづくり」へとつなげていく。

この計画が、町民の皆様にとって「新しい自分」や「大切な仲間」に出会うための地図となることを願っています。中川町が、学びを通じた笑顔と活力で満たされるよう、皆で一緒に歩んでまいりましょう。

最後になりましたが、この計画書は、令和7年12月3日の諮問以来、社会教育委員及びスポーツ推進委員で構成される「第11期中川町社会教育中期計画策定委員会」で、調査研究と審議を重ね、第8次中川町総合計画及び第3期中川町教育大綱との整合を図りながら策定されたものです。本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただいた策定委員の皆様、ならびに町民の皆様に深く感謝申し上げます、発刊の挨拶といたします。

令和8年3月

中川町教育委員会

教育長 足田 吉 識

第 1 1 期 中川町社会教育中期計画

目 次

	頁
第 1 章 第 1 1 期中川町社会教育中期計画の基本的な考え方	
第 1 節 計画策定の意義	……1
第 2 節 計画策定の基本的考え方	……2
第 3 節 第 1 1 期中川町社会教育中期計画の基本構造	……3
第 2 章 第 1 1 期中川町社会教育中期計画の内容	
第 1 節 第 1 1 期中川町社会教育中期計画の重点	……4
第 2 節 活動推進計画	
1 社会教育領域	……8
2 文化振興領域	……10
3 社会体育領域	……11
4 学習条件整備分野	……12
5 分野別計画書	……13－17
【資料編】	
第 1 1 期中川町社会教育中期計画各種アンケート調査結果	……18－47
第 1 1 期中川町社会教育中期計画パブリックコメント結果	……48
諮 問	……49
答 申	……50
第 1 1 期中川町社会教育中期計画策定委員会設置要綱	……51
第 1 1 期中川町社会教育中期計画策定委員名簿	……52
第 1 1 期中川町社会教育中期計画審議の経過	……53
附 図 中川町人口ピラミッド	……54
生涯学習のまちづくり	……55
中川ふるさと学習プロジェクト構想図	……57
中川エコミュージアム構想	……59
中川町総合型地域スポーツクラブ「なかがわスポーツくらぶ」	……60
コーディネーショントレーニング	……61

第1章 第11期 中川町社会教育中期計画の基本的な考え方

第1節 計画策定の意義

先人のたゆまぬ努力で築き上げられた中川町は、平成15年の100周年から20年以上が経過し、開町2世紀目を歩んでいます。しかしながら、経済活動の低迷による人口の流出、少子高齢化など、厳しい状況に置かれております。

このような中において、社会教育は、第7次中川町総合計画（令和元～令和6年度）をもとに第10期中川町社会教育中期計画（令和2～7年度）を指針とした、「心の豊かさとうるおいを実感し、楽しみと活力あふれる地域づくり」をめざし、関係機関、団体、住民との連携を図りつつ、生涯学習社会の実現を求めて社会教育の推進に努めてきました。

少子高齢化や人口減少、DX（デジタル活用の標準化）、AI（人工知能）、環境・エネルギー問題などで幅広い産業構造が変革し、人々の働き方やライフスタイル等が変化しています。このような急激な社会情勢の変化が、町民の生活環境や生活意識にも大きな影響を及ぼしています。また、国の社会教育行政においては従来の「生涯学習活動の提供」という枠組みを超え、「地域課題を解決するためのプラットフォームの構築」へと大きく舵を切っています。中川町においても、地域における人のつながりの希薄化や地域教育力の低下等、子どもたちを取り巻く環境にも変化が生じるなど、社会教育を取り巻く環境は、これからも急速かつ複雑に変化することが予想されており、これらの新たな課題に適切に対応していくことが求められます。

総合教育会議において町長と教育委員会が協議・調整を行い策定した第3期中川町教育大綱（令和7～令和11年度）では、本町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標（めざす姿）や施策の根本となる方針を総合的に定めています。

当中期計画期間は、財政的にも非常に厳しい状況を認識し、これら急速に変化する時代に対応するため、第8次中川町総合計画（令和7～令和11年度）及び第3期中川町教育大綱との整合を図りながら、生涯学習のまちづくりの基本目標である「だれでもどこでも学ぶ意欲を育む生涯学習」、「ともに学び、伝え、交流を広げる生涯学習」、「人が輝くまちづくりにつなげる生涯学習」を念頭におき、中川町町民憲章並びに中川町教育目標の具現化を図るため、実践に向けて指針となる「第11期 中川町社会教育中期計画」を策定しました。

第2節 計画策定の基本的考え方

1. 計画策定の基本方針

この計画は、中川町民憲章及び中川町教育目標を基本理念とし、「第8次中川町総合計画まちづくりの基本目標Ⅳ. 豊かな文化と人の育みを実感できるまち」及び第3期中川町教育大綱を基本目標として、社会教育の現状と課題を明確にし、次のような基本的な考え方で策定しました。

- ① 社会教育委員、スポーツ推進委員、公募委員で構成された「第11期中川町社会教育中期計画策定委員会」を設置し、「中川町民憲章」「中川町教育目標」の具現化を図るため、検討を進めた。
- ② 「第10期中川町社会教育中期計画」の事業評価と現状・課題の洗い出しを行った。
- ③ 「第8次中川町総合計画」及び「第3期中川町教育大綱」との整合を図った。
- ④ 住民の生涯学習の実態及び学習ニーズを把握するために、「生涯学習団体活動調査」と「町民アンケート」を実施し、その結果を計画策定のための基礎資料とした。
- ⑤ 生涯学習の観点に立ち、家庭・学校・地域との連携・融合をめざした。
- ⑥ 社会の情勢や町の情勢に対応した計画とした。

2. 計画の内容

この計画は、社会教育、文化振興、社会体育の3領域とし、家庭教育、青少年教育、成人教育、高齢者教育及び学習条件整備の5分野に分類しました。

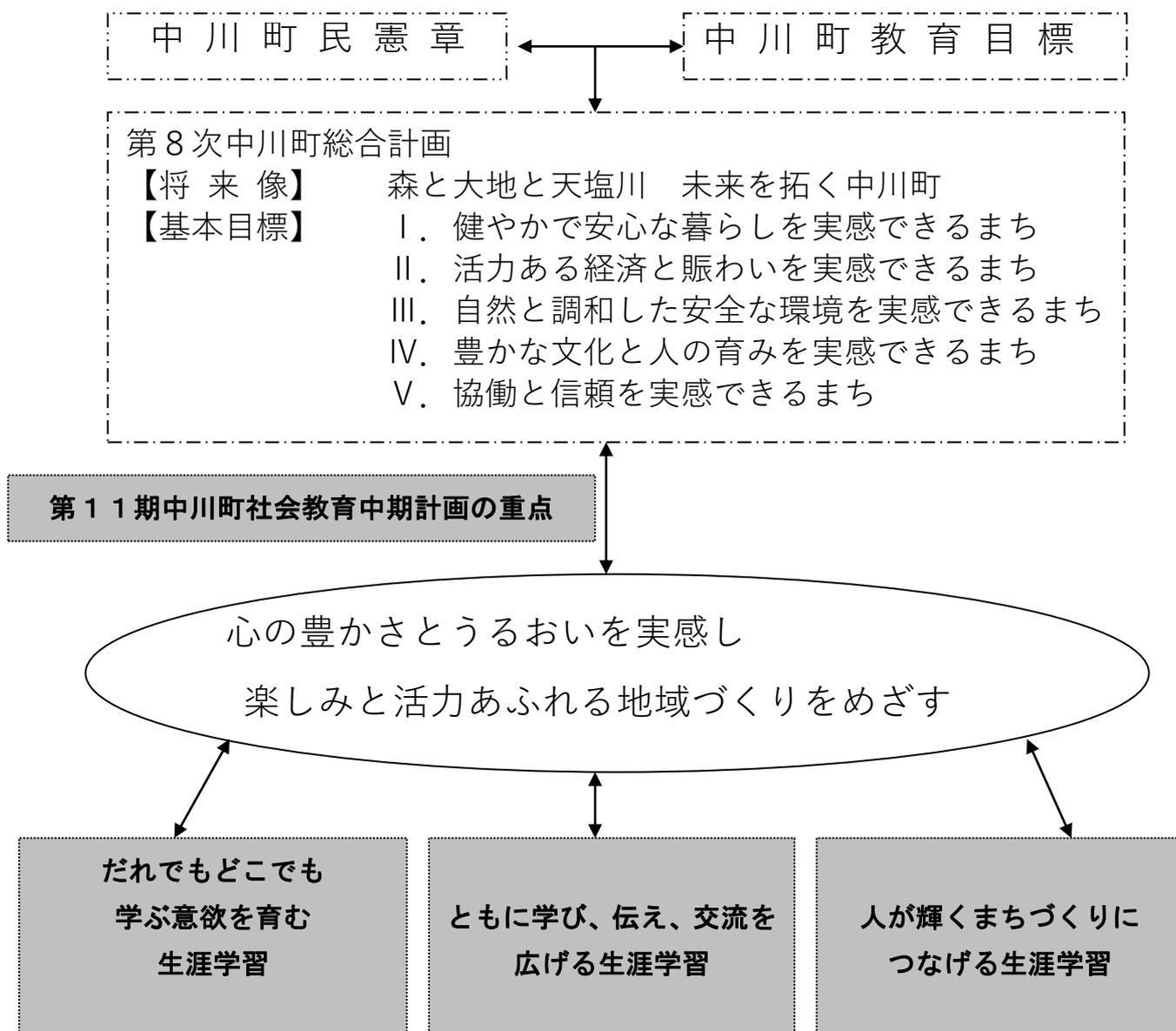
また、それぞれの領域において、分野ごとに現状の分析と問題点及び課題を整理し、目標と推進項目を定めました。

3. 計画の期間

この計画は、令和8年度を初年度とする令和12年度までの5か年計画とします。実施にあたっては社会情勢の変化に対応し、適宜見直しや改善を図るものとします。

第3節 第11期中川町社会教育中期計画の基本構造

町民憲章、教育目標、第8次中川町総合計画、第11期中川町社会教育中期計画の関連



第2章 第11期 中川町社会教育中期計画の内容

第1節 第11期 中川町社会教育中期計画の重点

心の豊かさとうるおいを実感し、
楽しみと活力あふれる地域づくりをめざす

☆ だれでもどこでも学ぶ意欲を育む生涯学習

☆ とともに学び、伝え、交流を広げる生涯学習

☆ 人が輝くまちづくりにつなげる生涯学習

森と大地と天塩川 未来を拓く中川町

1 これからの生涯学習

1. 生涯学習とは

生涯学習とは、人々がいつでも自由に学習機会を選択し、学習形態にとらわれずに人生を豊かにするために学ぶ活動です。

生涯学習は、社会教育、学校教育、家庭教育すべての学習活動を含むものであり、生涯学習の分野としては、意図的・組織的な学習活動だけでなく、個々に行う文化・芸術、スポーツ・レクリエーション、ボランティア、趣味などの活動が含まれます。

学習形態も、本を読んだり通信教育を受けたりする個人学習、学校での学習、公民館・図書館などの公共施設で行う講座の受講、民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどの学習、企業内学習、サークル活動など様々なものがあります。

2. 生涯学習の必要性

① 一人ひとりが自己実現を図る面から

だれもが物質的な豊かさや精神的な豊かさを求め、自己の充実・啓発や生活の向上のため、生涯にわたってあらゆる機会にあらゆる場所において学習し、その中で自己実現を図る必要があります。

② 社会の変化による面から

今日は、急速な科学技術の高度化や情報化等により新しい知識があらゆる領域で重要度を増す「知識基盤社会」です。そのため、自ら課題を見つけ考える力、柔軟な思考力、複雑な課題を解決する力、他者との関係を築く力など、豊かな人間性を含む総合的な「知」が必要となります。特に現在は膨大なデータから価値を抽出する能力や、異なる分野の知識を組み合わせる「共創」の力が社会課題を解決する鍵とされています。

③ 自立した個人の育成や自立した社会の形成の面から

行財政改革の観点から様々な業務が「官」から「民」へ移行され、行政サービスが縮小される傾向にあり、各個人が主体的に判断することが求められています。また、地方分権が進む中で地域住民が自らその役割を果たす状況が増えるために、地域全体の教育力向上も課題となります。

このような状況の中で、一人ひとりが自らの人生を豊かなものにし、地域社会を育成するために、ニーズに応じた学習機会の充実と学習活動の支援が必要となります。

④ 持続可能な社会の構築の面から

持続可能な社会では、各個人が社会の構成員として責任を果たし、社会全体の活力を持続させることが大切です。そのために、各個人が自らのニーズに基づき学習した成果を社会に還元し、社会全体の持続的な教育力の向上に貢献する「知の循環型社会」の構築が必要です。

3. 生涯学習とまちづくり

生涯学習は、精神的充足感を得る個人的な活動です。自分らしく生きたいという個人の学習意欲は、日常生活を取り巻く様々な問題への関心を高めます。そして、自らの学習成果を生かしたいという意欲は、人々の住みやすさ、暮らしやすさに対する「思い」や周りをよくしたいという「願い」につながります。

この住みやすさや暮らしに対する「思い」「願い」を具現化していくための活動や取り組みこそが、まちづくりともいえます。そして、これを進めるためには、協働・連携なども含めたあらゆる「学び」が必要となります。

よって、生涯学習の推進は、学習成果が地域社会に還元される機会を創出し、生涯学習を通して地域で輝く人、地域を担う人を創り出す「まちづくり」を目指すものです。

2 生涯学習のまちづくり

1. 生涯学習のまちづくりのテーマ

『心の豊かさとうるおいを実感し、楽しみと活力あふれる地域づくりをめざす』

2. 生涯学習のまちづくりの基本目標

- I だれでもどこでも学ぶ意欲を育む生涯学習
- II ともに学び、伝え、交流を広げる生涯学習
- III 人が輝くまちづくりにつなげる生涯学習

3. 生涯学習のまちづくりの基本計画

基本目標 I だれでもどこでも学ぶ意欲を育む生涯学習

「一人ひとりが生涯にわたり学習することができる環境の整備、学習の支援」

施策1. 学習機会を提供し、生涯学習を身近なものにします。

- (1) 学習環境の整備（目的・ニーズに応じた学習の支援）
- (2) ライフステージに応じた学習支援
- (3) 生涯スポーツの振興（総合型地域スポーツクラブとの連携）
- (4) 健康の増進と維持（保健センター事業との連携）
- (5) 芸術や文化とのふれあい（自主的活動との連携）
- (6) 図書室事業の充実

施策2. 家庭と地域が一体となり豊かな心を育てます。

- (1) 家庭の教育力向上の支援（親子がともに学ぶ機会の充実）
- (2) 地域力による青少年健全育成（総合型地域スポーツクラブ・子ども会活動の充実）

施策3. 生涯学習施設などの有効な活用を進めます。

- (1) 既存学習施設の有効活用
- (2) 学習施設管理の効率化
- (3) 学習施設のネットワーク化

施策4. 利用しやすい学習情報を提供します。

- (1) 学習状況の収集と整理
- (2) 提供する学習情報の充実
- (3) 学習情報の提供システムの工夫
- (4) 出前講座の実施

基本目標 II ともに学び、伝え、交流を広げる生涯学習

「生涯学習の成果を活かし、人と人とのつながりを進める仕組みづくり」

施策1. 生涯学習の担い手を広げます。

- (1) 生涯学習に携わる人材の呼びかけ
- (2) 指導者・地域講師バンクの整備

施策2. 持続可能なサークル活動の推進

- (1) 各サークル活動の支援
- (2) 文化団体、体育団体への支援
- (3) 指導者の育成
- (4) サークル同士の交流や連携支援

施策3. 学習成果を活かす機会を広げ、学びを通して、交流活動を進めます。

- (1) 多世代交流と学習成果の発表の場の創出
- (2) 学習成果の評価と挑戦への支援
- (3) 多様な学習プログラムの開発と提供

基本目標 III 人が輝くまちづくりにつなげる生涯学習

「生涯学習を通して支えあい、豊かな心を育むまちづくり」

施策1. 地域活動やボランティア活動を支援します。

- (1) 生涯学習ボランティアの推進
- (2) 地域活動・ボランティア活動に対する支援

施策2. 一人ひとりの活動がまちづくりにつながる意欲を育てます。

- (1) 生涯学習によるまちづくりに向けた行政システムの整備
- (2) まちづくりへの参画を視野に入れた学習機会の提供
- (3) まちづくりリーダーの育成
- (4) 関係機関、関係事業との連携
- (5) 未来を築くまちづくり

第2節 活動推進計画

1 社会教育領域

近年のめまぐるしく変化する社会や、学習ニーズの多様化及び高度化に対応した学習の必要性が高まっています。また「生涯学習のまちづくり」においては、自己実現のため学習だけでなく、学習成果を地域に還元することや地域づくりの担い手の育成につながる学習が求められています。

■家庭教育の推進・青少年の健全育成

核家族化や少子化、情報社会における価値観の多様化・個別化が顕著になる中、家庭の教育力の向上は、最も難しく大きな課題となっています。子育て支援体制の整備や託児サービスの実施などで、親子で参加・学習できる教育事業を推進することや、家庭・地域・学校が関わる活動を充実する必要があります。関連組織・団体との連携を深め、以下の2点を目標として家庭教育を推進していきます。

- ・子育て世代が安心して子育てができる環境づくりを進める。
- ・ノーメディアデー¹の時間を活用し、体験活動や読書、対話をする時間に繋げていく。
- ・学校が担う「集団教育」と、家庭が担う「心身の成長・生活習慣の確立」これらの活動を進め、互いに補完し合う関係性を構築していく。

青少年は、心身ともに著しく発達を遂げ、人間形成の基礎を養う重要な時期であり、自ら考え判断し、表現・行動する力を育てなければなりません。そのために、学校や家庭、地域社会が一体となり、青少年が均衡のとれた心の成長を遂げることが出来るよう、自然体験や生活・社会体験など、同年代との交流や異年齢の人々との関わり場の場及び学習の機会を提供することが重要です。地域社会として、中川の子どもに積極的に関わり、子育てをする保護者の応援者となり、保護者と地域が子どもたちを守り育てる地域社会を目指すために、地域力を生かす学校支援や、家庭・学校・地域の協働体制づくりを進め、以下の2点を青少年教育・青少年健全育成の目標として、推進していきます。

- ・「15歳の春」を自立の節目とし、郷土への誇りと未来を切り拓く志を育む
- ・生涯学習活動を通じて、青年層の地域づくりへの参画を促す。

¹ ノーメディアデー：テレビやゲーム機、スマートフォン、パソコンなどすべてのメディアの利用を控える日を各家庭で作る取り組み。中川町ではPTAや図書室を中心に実施しています。



■成人・高齢者教育の推進

ライフスタイル・価値観の多様化により、町内でも特に若年層に個人主義化が進んでいる傾向がみられますが、中川町の良さである「ひとのつながり」を大事にして、学習活動や住みよい地域づくりのための活動への参加促進に努める必要があります。生涯学習団体に加入する意向は少ないものの、成人の学習ニーズは多様化し、学習機会の充実や学習支援が求められており、多くの成人が参加できるような内容・条件の設定が課題です。また、学習ニーズに応えるために、地域人材の活用だけでなく外部人材の招へいなどを検討する必要があります。学習成果は地域に還元することが必要で、生涯学習活動を通じて地域を担うリーダーの育成が急務であり、以下の2点を目標として成人教育を推進していきます。

- ・団体活動を通じた地域人材の育成・活用を推進し、持続可能な地域社会の構築に資する。
- ・生涯学習活動への参加を促し、学習成果を学校・地域に還元するよう努める。

地域における高齢者の割合は増加しており、今後ますます生涯学習活動における重要性が高まると推定されます。高齢者の経験と知恵を生かした学校などでの伝承活動をはじめ、社会的役割の自覚や生きがい活動を支援する体制づくりが重要です。また、情報化が進むことにより、高齢者の方もスマートフォンを持つ方が多くなり、時代の変化に対応した学びが必要となってきます。高齢者の生涯学習は、以下の2点を目標にして推進していきます。

- ・世代間交流を軸とした歴史・文化の継承を進めていく。
- ・時代に合った学びの場を提供し社会とのつながりをもち、新たなものを学び続ける意識を持つ。

本町の人口分布において大きな割合を占める成人・高齢者は、本町の生涯学習において中心的に活動している世代であり、社会教育、文化振興、社会体育を通して、住民一人ひとりが自己実現を果たし、「中川らしい」地域に根ざした学習成果を蓄積し、その成果を地域に還元していくことが必要です。そのために外部講師の招へいも含め、学習機会を充実させ、地域づくりに積極的に参画する人材の育成を進めていきます。



2 文化振興領域

生活水準の向上や著しい情報化の進展など住民のライフスタイル・価値観は多様化し、「心の豊かさに相応した文化活動」の要求が高まり、これに応えた学習機会の充実が求められています。

しかし、既存団体での活動が若年層のニーズと合わない部分もあり、「若年層の参加が少ない」「新規加入者がいない」という課題が続いています。また、コロナ禍により活動休止を余儀なくされた後に、継続できている団体もあれば、高齢化とともに解散をしている団体もあります。そのため、中川の文化発展の視点で、文化団体への支援の仕組みをあらためて構築する必要があります。現在、生涯学習センターを活動拠点とし、団体自らが企画立案し、運営をする自主的な文化・芸術活動がいくつか行われていることから、これをより一層支援していく必要があります。そして、学んだことを地域に還元する活動に発展していく機運を高めていかなければなりません。そのために、指導的な立場で活動をコーディネートできる人材の育成や、相互に連携し、協働の姿勢が重要となります。

文化活動の充実は、町の活性化や住みよいまちづくりを推進する上で、重要な課題です。感性や情操に満ち溢れた心豊かな社会をつくるためには、「いつでも、どこでも、だれでもが必要に応じて学ぶことができる」環境づくりを進め、住民が主体となった文化芸術活動を進めるために行政の支援体制の確立が必要と考えます。

豊かな社会経験を有する地域人材の発掘や、時代や若い世代のニーズに応える外部講師の招へいによる学習機会の提供や世代間の交流を推進するなどの文化活動を推進します。

- ・団体活動を通じた地域人材の育成・活用を推進し、持続可能な地域社会の構築に資する。(目標の本掲載は社会教育領域成人教育分野)
- ・行政と文化・体育団体は協働で充実した学習活動を行うよう連携する。(目標の本掲載は学習条件整備分野)



3 社会体育領域

健康志向の高まりを受け、住民に心と体の健全な発達を促し、健康で安全な生活を営むことのできる力を与え、人間性を豊かにするための社会体育活動を進める環境づくりを進めることが必要です。そして、競技スポーツだけでなく、健康づくり・体力維持も含んだ“体を動かし、五感を刺激する”スポーツ・レクリエーションを住民の生活の一部とする生涯スポーツ社会の実現を目指していきます。

少子高齢化が進む中でも継続的に行われているスポーツ少年団活動は、スポーツを通じた青少年の健全育成に寄与しています。現在は各少年団で指導者の確保・後継者育成が進んでいますが、少年団数も3団体となり、加入率の低さは課題であります。令和8年度から少年団本部と総合型地域スポーツクラブが統合され、引き続き少年団活動への加入促進や指導者研修などを支援するとともに、多様な青少年のスポーツ活動のニーズに対応した活動を進めていきます。

総合型地域スポーツクラブ「なかがわスポーツくらぶ」は年代別の健康づくり・体力維持の普及促進を進めています。とりわけ、コーディネーショントレーニングについては、指導者の育成や親子などを対象とした講習会を開催するなど、なかがわスポーツくらぶと連携して進めます。

また、各町内会・自治会など地域コミュニティで進められている健康・体力づくりのための事業を各体育団体や福祉団体等と連携していくことが必要です。

以上のように、スポーツニーズ・健康づくり・体力維持の多様化に対応できる体制の整備と、指導者の発掘と養成に努め、長期的展望に立った生涯スポーツの振興を関係機関、団体と連携して進めます。

- ・団体活動を通じた地域人材の育成・活用を推進し、持続可能な地域社会の構築に資する。(目標の本掲載は社会教育領域成人教育分野)
- ・行政と文化・体育団体は協働で充実した学習活動を行うよう連携する。(目標の本掲載は学習条件整備分野)
- ・地域人材を活用した多様な講座の開催による学習機会を拡充する(目標の本掲載は学習条件整備分野)



4 学習条件整備分野

平成27年1月に開設した生涯学習センターの運用に関しては、連絡会議を設置して各文化団体や体育団体と連携しており、今後とも日常的な利用や公演・講座の企画立案・実施を進めていきます。令和4年度に中川町を襲った震度5強の地震によりトレーニングセンターは大きな被害を受け、多くの体育団体が現在別の施設で活動をしています。新たな体育施設の建築は困難であり、既存施設の利活用や集約化について今後は検討を進めつつ、個人利用も含めたすべての住民の生涯学習活動をサポートします。また、施設運営の充実の観点から、生涯学習活動のコーディネートを行う人材や、スポーツ指導者を積極的に求め、各団体の活動を支援できる体制づくりを目指します。

現在社会的にデジタル化が進んできており、私たちの生活にも身近な存在となってきています。高齢者の多い町でもその影響は少しずつ増えていくことが予想されることから、デジタル・リテラシー²の向上に向けた学習支援を進めて参ります。

文化振興・社会体育領域でも触れましたが、地域人材の発掘および外部講師の招へいを実施し、引き続き学習機会の充実を図っていきます。

より豊かな学びの機会を提供できるようにするため、以下の4点を目標とします。

- ・施設の複合化・集約化の可能性を検討しつつ、既存施設を活用した多様な学習機会を提供する。
- ・デジタルとアナログで効果的な情報提供体制を確立し、住民のデジタル活用能力向上に向けた学習支援を推進する。
- ・地域人材を活用した多様な講座の開催による学習機会を拡充する
- ・行政と文化・体育団体は協働で充実した学習活動を行うよう連携する。

²デジタル・リテラシー：パソコンやスマートフォンなどの技術を理解し、情報を適切に収集・判断・活用する能力



5 分野別計画書

■家庭教育分野

	社会教育領域	文化振興領域	社会体育領域
現状 ↓ 課題	<p>【親と子の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親と子の会話が少なくなってきている。・子どもが家の家事手伝いをしなくなっている。 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か調べものをするにも携帯やパソコンに頼り切りで家庭内での会話が減っている。 ・親も子どもも勉強や仕事で忙しく使える時間が少ない。 <p>【メディアとのかかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーメディアデーの取り組みを推進しているが、いきなりメディアから離れても何をすればいいかわからない。 ・メディアが与える影響や正しい使い方の把握ができていない。 <p>【団体活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体に入っている人同士の交流はあるが、入っていない人は交流できていない。 ・サークルメンバーの高齢化が進んでいる。 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーメディアデーに行事を実施して、新しいものに取り組むきっかけを作してほしい。 <p>【学校とのかかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が学校の先生に求めすぎている。 ・保護者と先生の立場が対等から一方的に変化している。 <p>【子供同士の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接子供同士で遊ぶ機会が減ってきている。 		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が安心して子育てができる環境づくりを進める。 ・ノーメディアデーの時間を活用し、体験活動や読書、対話をする時間に繋げていく。 ・学校が担う「集団教育」と、家庭が担う「心身の成長・生活習慣の確立」これらの活動を進め、互いに補完し合う関係性を構築していく。 		
・ 推進 項目 ・ 具体 策	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアを「遮断」するだけでなく、空いた時間で取り組める過ごし方を提案し、家庭での実践を支援する。 ・子ども会、少年団活動をはじめ、家庭・地域・学校が関わる活動の調整・推進・支援を継続する。 ・放課後子ども教室や地域の団体活動等を通じ、多世代で子どもの社会性や生活習慣を育む環境を整備する。 		

■青少年教育分野

	社会教育領域	文化振興領域	社会体育領域
現状 ↓ 課題	<p>【高校生とのかかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町に高校がないため高校生がほとんどいない ↓ ・成人と子どもとの世代をつなげる可能性のある高校生がいない分、世代間のつながりが希薄になっている。 ・高校生になったら町外に出て活動するため近隣学校に通学する場合に時間がかかる。 <p>【講演会・教室等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・告知や周知が足りないため、参加者が集まらず参加者が固定化している。 ・子供のやりたいことが多様化しており、需要が把握できていない。 <p>【子供たちの行動力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な行動が求められている中、子供たちは自分の意思で決定して行動できているのか。 ↓ ・自分たちが主体となって動く活動が少なく、成功体験が得られていないため消極的になってしまう。 		
	<p>【地域とのかかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少で家庭と地域とのかかわりが少なくなっている。 ・子供たちが中川町を好きなのかわからない。 ・町に高校がないため、高校生が学校単位で地域づくりに参画することが難しい。 	<p>【子供の運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果、子供たちの体力が低下している。 ↓ ・運動の場や機会が少ない。 <p>【部活動・クラブ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校と中学校のクラブ活動と部活動のメニュー被っていないため、同じスポーツを続けることが難しい。 ・部活動やクラブ活動の選択肢が少ない。 	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「15歳の春」を自立の節目とし、郷土への誇りと未来を切り拓く志を育む ・生涯学習活動を通じて、青年層の地域づくりへの参画を促す。 		
・具体策 推進項目	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え行動する「行動力」を養うとともに、青少年が社会の一員として地域活動に参画する機会を創出する。(デジタル上のつながりだけでなく、五感を使った遊びや活動を通じて、子どもたちの社会性を育む。) ・生涯にわたる心身の健康の基礎をつくり、多様なスポーツ・文化活動に親しめる環境を確保する。 ・少子化に対応し、学校の枠を超えた地域主体のスポーツ・文化環境を整備する。 		

■成人教育分野

	社会教育領域	文化振興領域	社会体育領域
現 状 ↓ 課 題	<p>【団体活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サークル等の団体に属さない人が増えた。 ・動画やインターネットで個人的に学ぶことがしやすくなっている。 ・コロナ禍で活動できなかった影響により、コロナ前の活動や運営の引継ぎがうまくいっていない。 ・青年会などの団体がなくなった。 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体に属すると面倒な役割を任せられることがあるため、参加したくない。 ・人との交流がうまくできない。 ・組織のリーダーを務められる人がいないため、組織の更新ができない。 <p>【地域人材の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく地域人材がいるのに活かされていない。 		
	<p>【事業参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親世代が出られるような事業が減った。 ・親子で参加できる事業が少ない。 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事や事業に参加する際の託児場所が少ない。 ・子供に親が何をしているか姿を見せることが必要。 <p>【世代間ギャップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代間を超えて会話するのが難しい。 ・ハラスメント等によりコミュニケーションが取りづらい。 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流が少ない。 	<p>【団体活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年団の指導者については世代交代が進んでいる。 	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・団体活動を通じた地域人材の育成・活用を推進し、持続可能な地域社会の構築に資する。 ・生涯学習活動への参加を促し、学習成果を学校・地域に還元するよう努める。 		
具 体 策 推 進 項 目	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動等への参加障壁を低減し、未加入者層や若年層の参画を促す仕組みづくりを推進する。 ・事業参加を通じて得られた知識やスキルを、地域活動や学校教育へ還元できる仕組みを構築する。 ・多様な広報媒体を戦略的に活用し、住民のニーズに合った情報を届ける。 ・住民の生活環境に即した多様な活動機会を創出し、誰もが生涯学習活動へ容易に参画できる環境を整備する。 		

■高齢者教育分野

	社会教育領域	文化振興領域	社会体育領域
現 状 ↓ 課 題	<p>【世代間交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代を超える交流が少ない。・高齢者と子供の交流事業はあるが、高齢者と成人との交流事業が少ない。 ↓ ・世代間で何か事業をできるようなつながりが少ない。 ・子供世代だけでなく親世代とのかかわりも持たせたい。 ・区内での交流はあるが町全体での交流をしたい。 <p>【活躍の場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が活躍できる場が少ない。 ↓ ・講師になれる人材が少ない。教える立場になるための学習の機会が少ない。 ↓ ・学校運営協議会の中で地域に依頼をして講師を引き受けてくれる人がいたらいい。そのためには様々な分野の地域講師を探しリスト化する必要がある。 <p>【団体活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体に入っている人同士の交流はあるが、入っていない人は交流できていない。 ・サークルメンバーの高齢化が進んでいる。 ↓ ・サークルに加入したくてもできていない人がいるかもしれない。 ・高齢者でも働いている人が多い。 ・団体に加入できていない人が交流する場がない。 		
		<p>【学習発表の場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬老会や文化祭等で高齢者が率先して舞台上がっている。 ・高齢者が発表する場が増えたら、活動が活発になるかもしれない。 ・町民文化祭についてはやり方を変え、展示物の出展をサークルのみならず仕事でやっている木工作家などの人を入れるのもよいかもしれない。 <p>【ポンピラ塾】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校とのつながりはある。 ・体験教室や単発の授業は好むが、年間を通しての学習等になると尻込みをしてしまう。 ・塾生数が減少している。 塾生の固定化が進んでいる。 歴史文化の継承のためふるさと学習は続けるべき 	<p>【運動活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の参加率は高いが、男性の参加率が極端に少ない。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流を軸とした歴史・文化の継承を進めていく。 ・時代に合った学びの場を提供し社会とのつながりを持ち、新たなものを学び続ける意識を持つ 		
推 進 項 目 ・ 具 体 策	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に対応するための「新しい学び」の場を整備し、社会参画の意欲を高めていく。 ・他世代との学びの成果を披露しあえる機会を提供する。 ・役場住民課や社会福祉協議会などと連携し、積極的な体力づくりへの呼びかけを実施し、軽体操やニュースポーツなどを通して楽しみながら健康づくり事業に参加できる体制を維持する。 		

■学習条件整備分野

	社会教育領域	文化振興領域	社会体育領域
現状 ↓ 課題	<p>【事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の参加人数が少ない。・イベントの周知には主にお知らせ君を使用している。 ・親が子供をイベントに誘うモチベーションが低い <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周知が足りないため周知方法に工夫が必要 ・お知らせ君以外の周知方法（SNS等）についても考える必要がある ・イベントの実施状況がわからない。 ・協議会の数は増えているが、関わっている人は毎回同じになっている。 <p>【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちやいむの各部屋の利用頻度に差がある ・活動している際の音の問題。 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設申請のオンライン化を進めてほしい。 <p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生とかかわる機会が少ない。 ・学習をするための団体はある。 ・ストレッチ等、軽運動の教室が欲しい。 		<p>【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備の維持管理が難しい。 ・運動専用のアリーナ等があればいろいろなスポーツができ、大会も開け町外の人も呼べる。 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理のためにお金を取った方がよいのか。 <p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外運動の機会が少ない。 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外運動の学習機会を作る。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の複合化・集約化の可能性を検討しつつ、既存施設を活用した多様な学習機会を提供する。 ・デジタルとアナログで効果的な情報提供体制を確立し、住民のデジタル活用能力向上に向けた学習支援を推進する。 ・地域人材を活用した多様な講座の開催による学習機会を拡充する ・行政と文化・体育団体は協働で充実した学習活動を行うよう連携する。 		
推進項目・具体策	<ul style="list-style-type: none"> ・現状施設の機能分析と多目的活用の推進を進めていく。 ・多様な媒体を活用した戦略的な情報発信の展開と、住民のデジタル・リテラシー向上に向けた学習支援体制を整備する。 ・地域人材データベースの構築し、多様な学習ニーズに応える基盤を形成する。 ・生涯学習センター連絡会議を適宜開催し文化・スポーツ団体と意見交換を進めていく。 		